③ 河口域

那珂川の河口から 1.5km 上流にある湊大橋（ひたちなか市関戸）周辺には，干潟とヨシ原が見られる場所があり，ガマ，マコモなども生育している。また，河口の右岸側に広がる砂州にはハマエンドウやコウボウムギ，コウボウシバなどの海浜性の植物が生育する場所もわずかにある。

那珂川河口の北側に位置する湊公園（ひたちなか市）は台地になっており，市街地を眺める景勝地でもある。ここには，ひたちなか市の天然記念物に指定されているイワレンゲが，海岸の礫岩上や砂岩上などに生育している。イワレンゲは，温暖な気候の海辺に生育するベンケイソウ科の多肉植物で，ひたちなか市はイワレンゲの北限といわれている。また，ハマギクの南限といわれている。そのほかに，河口より北側の海岸沿いは，ネコノシタの北限，シロヨモギは南限に近いといわれるように，南限，北限の海浜植物が分布している。

那珂川右岸の砂州（大洗町　2 月）

コウボウシバ（カヤツリグサ科）
（写真：㈱建設環境研究所）

ハマエンドウ（マメ科）
（写真：㈱建設環境研究所）

イワレンゲ（ベンケイソウ科）
（写真：大津 昭治氏）

ハマギク（キク科）
（写真：安 昌美氏）

図 4-61　河口の砂州と海浜植物

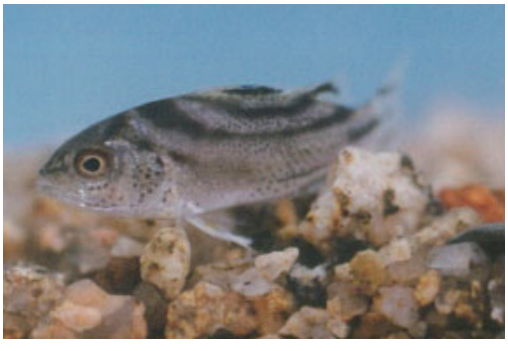
河口域は，沿岸性の魚類が多く見られる場所である。平成 13 年度に実施された『河川水辺の国勢調査』によると，ボラ，クサフグ，コトヒキなどが多く確認されているが，アユやワカサギ，マルタなどの回遊魚も確認されている。さらに，ハゼ科魚類も多く，マハゼの他，アシシロハゼ，アカオビシマハゼ，ビリンゴなどが生息し，近年減少しているエドハゼも確認されている。

河口域では釣りが盛んであり，6 月からクロダイ（カイズ），ウナギなど，9 月からボラ，マルタ，ヒラメ，スズキ（セイゴ），ハゼ類などを釣る人達でにぎわう。

河口域では底質が砂泥であり，塩分濃度が高いため，底生動物は，イトゴカイ科の仲間，ゴカイ，ヤマトスピオ等の汽水*性の種が優占している。

マルタ（コイ科）
（写真：稲葉 修氏）

アシシロハゼ（ハゼ科）
（写真：稲葉 修氏）



コトヒキ**（シマイサキ科）
（写真：稲葉 修氏）

クサフグ***（フグ科）
（写真：稲葉 修氏）

図 4-62　河口部の生物

＊汽水
河川などから流出する淡水と，海洋の海水とが混合して形成される中間的な塩分濃度の水。

＊＊コトヒキ（シマイサキ科）
全長約 30 ㎝。沿岸，内湾，河口域に広く分布する。沿岸のごく浅いところで成長し，浮遊動物や底生動物を食べる。浮き袋を使って音を発する。

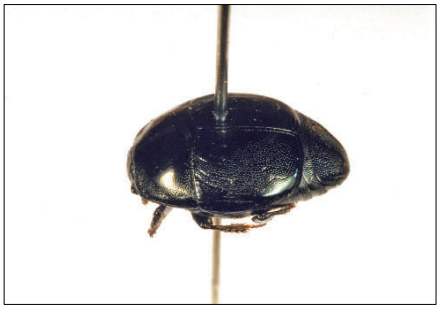
＊＊＊クサフグ（フグ科）
沿岸に広く分布する。5 月中旬から 7 月中旬の大潮の数日後に，磯にある小さな砂場で群れをなして産卵する。ふぐ毒のテトロドトキシンを内臓に持ち，食用にならない。

冬季の河口域は，カモ類，カモメ類の越冬場所になっており，ウミウ，ヒドリガモ，ホオジロガモ，キンクロハジロ，ユリカモメ，ウミネコ，セグロカモメなどが集まってくる。河口右岸のわずかな干潟では，キョウジョウシギ，トウネン，キアシシギ，ミユビシギなどのシギ類が採餌するのをみることができる。

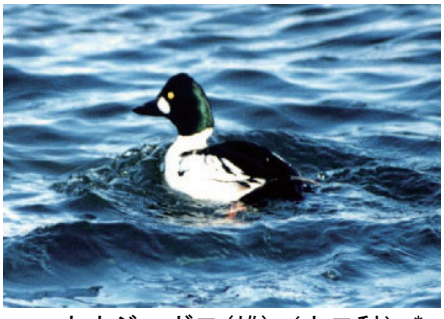
また，干潟の昆虫としては，ハマベハサミムシ，ハマベエンマムシ，ルリエンマムシ，ウミベアカバハネカクシなどの海浜性の種が生息している。

河口付近に集まるカモ類（大洗町　２月）

ウミネコ（カモメ科）
（写真：㈱建設環境研究所）



ルリエンマムシ（エンマムシ科）
（写真：栃木県立博物館）



ホオジロガモ(雄)（カモ科）＊
（写真：㈱日水コン）

キンクロハジロ（雄）（カモ科）
（写真：㈱日水コン）

図 4-63　河口付近の生物

＊ホオジロガモ(カモ科)
日本へは冬鳥として渡来する。頬が白いことが特徴。海に潜り貝類，甲殻類，小魚，水棲昆虫などの動物質を餌とする。水草などの食べることもある。